

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>職員全員で意見を出し、考えた理念を作成している。</p>	○	地域密着型サービスとしての理念として不十分だと思うので改善していく方向で検討している。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>朝礼時、毎日理念の唱和を行っている。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> <p>理念は、施設内だけに掲示しているだけであり、家族に浸透しているとは思えない。また、地域の方々との交流も少ないため理解は得られていないと思われる。</p>	○	地域行事への参加・施設行事への招待などを通して地域の方々との関わりを多く持つようにしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>夏祭りでは、地区の青年会の協力を得て準備から参加いただいている。また、近隣には案内状を出したり、掲示物を貼らしていただくなど、多く参加していただいている。</p>	○	夏祭りでは、近隣の多くの方に参加していただいているが、それ以外は不十分のため、今後は積極的にお付き合いできるよう取り組んでいきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>自治会、老人会などの情もなく、交流できていない現状である。</p>	○	運営推進会議に参加していただいている自治会長などから情報をもらい、自治会、老人会などの行事に参加できるよう取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域活動にも参加できておらず、地域の高齢者との関わりも持っていない現状である。	○	施設のイベントにも地域の高齢者が参加できないことがないか、また、地域の方が気軽に相談できる環境をつくれるよう取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を通じて足りない部分が明らかになることで現在の状況を把握し、少しずつではあるが、改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現況報告、行事報告は必ず行い、家族からの意見が反映できるように取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	実際に行き来出来ていないが、不明・不安な事柄についてはその都度、電話にて確認している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は一度研修は受けているが不十分であり、職員については理解、把握できていない。	○	現在、学ぶ機会なくわかっていない職員が殆どであり、今後、外部研修に参加したり、施設内研修などを実施して必要な時は活用できるよう取り組んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束防止委員会を設けて3か月に1回、また必要に応じて委員会を開催し、決定事項は全職員に周知している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を用いて十分に説明し、理解・把握したかを確認した上で契約を締結・解除している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談箱を分かりやすい場所に設置し、いつでも苦情・不満を訴えることができるようにしている。	○	アンケートにて満足度調査を実施するなど、積極的に働きかけてできるだけ早い段階で解決・改善できるように取り組んでいきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	四半期に一度広報誌を発行している。また、担当者より個別に一筆箋で様子を報告している。健康状態については、適宜報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談箱を分かりやすい場所に設置し、いつでも苦情・不満を訴えることができるようにしている。	○	アンケートにて満足度調査を実施するなど、積極的に働きかけて出来るだけ早い段階で解決・改善できるように取り組んでいきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、職員会議を行い意見交換できるようにしている。	○	職員が活発に意見を出せるような環境の整備に取り組んでいきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況に変化があった場合は、職員全員で話し合い、早出・遅出の時間を変更するなどその時に合った対応ができるようにしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者などと話し合いの機会を設けたり、職員と関わる機会を持ち、職員個々の把握に努めることで離職や異動は最小限に抑えるようにしている。交代がある場合は、馴染みの管理者や職員が利用者との間に入り利用者が違和感を覚えないように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に関して、必要と思われるものについては受講できる機会を設けている。内部研修については、研修委員会を設け定期的の実施している。	○	目標・計画を立てて職員が向上していけるよう取り組みたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	1階が特定施設であり夏祭りなどイベント行事は合同で実施している。また、事故防止委員会、拘束防止委員会など各委員会も勉強会の一環として多くの意見が出せるようにしている。	○	外部の同業者との交流・勉強会が実施できるように企画しているので早く実施に向けて取り組みたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者などと話し合いの機会を設けたり、職員と関わる機会を持ち、職員個々の把握に努めている。また、慰安旅行・食事会などの機会をつくり少しでもストレスの解消になるよう努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格・試験の金銭補助や勤務の調整など取得しやすい環境を整え、常に個々が向上していけるよう取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	来設された方は施設内で、自宅などへ訪問の依頼があれば訪問し初期面接の時間を十分に取っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	来設された方は施設内で、自宅等を訪問の依頼があれば訪問し初期面接の時間を十分に取っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期アセスメント時に何を必要としているのかを見極めることができるよう努めている。現在は他サービスの利用はない。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族と話し合いながら意見・意向を大切に、本人・家族の選択をもとに徐々に信頼関係を築けるよう努めている。他の利用者と関わる時は、孤立しないよう間に入り馴染めるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「寄り添い待つ介護」の理念を念頭に、利用者の意見・意向を最優先に相談しあえるような信頼関係を築けるように、個別担当者を中心に支援している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者を中心に利用者の状態・状況を共有し、信頼関係を築きながら関わること以外の相談なども、気軽に話しあえるような関係づくりに努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族のよりよい関係が継続できるように良き潤滑剤になれるように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参りや近所の散歩などに出向いたり馴染みの店に買い物に出かけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	協力して洗濯物をたたんだり、食後のテーブルを拭いたりしながら会話ができる環境を整えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今までは、関わりを持つような事案がなかったが、需要があった場合は対応できるような体制はできている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で得た利用者の思いを把握し安心して暮らせるように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期面接時のアセスメント記録にて把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	バイタルサインチェックの実施、介護記録への記入、確認をすることでその利用者の変化に気付けるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ほぼ3か月に一度のモニタリングを実施し、変更があった場合はプランを見直しケアカンファレンスを開催し、必要な関係者と話し合い利用者に合った介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ほぼ3か月に一度のモニタリングを実施し、変更があった場合はプランを見直しケアカンファレンスを開催し、必要な関係者と話し合い利用者に合った介護計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンに記録し情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所自体が多機能性を持っていないが、要望があれば可能な限り個別に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアは年に数回慰問に来ていただいている。また、近隣の幼稚園の園児との交流もあり、敬老会や、ひな祭りには行き来できるような体制を整えている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネジャーやサービス事業者との交流は少なく、他のサービスを利用するまでには至っていない。金銭的にも難しい現状である。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員会以外に地域包括支援センターとの協働はない。	○	地域包括支援センターとの交流を深めていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは十分に良好な関係が築けている。定期的受診以外にも緊急の場合は、適切な医療が受けることができる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医との関係は築けていない。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者をよく知る看護師がいる。気軽に相談できる関係ができている。医療に関する研修も施設内研修として適宜実施している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	お見舞い時の利用者の状況確認、医療関係者による説明や家族からの状態確認を実施し、早期退院につなげることができるよう努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医の指示により、看護師、管理者、介護職員、家族で状態に応じて話し合い、最善のサービスが提供できるように努めている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所内で「できること・できないこと」の見極めを主治医の指導のもと協議し、状態に応じた対応や方法を準備している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅との差を少しでも軽減するために、馴染みの家具などを配置したり、自宅での過ごし方や生活暦について十分な情報が得られるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮した声掛け・対応はできている。記録類は詰所の鍵の掛かる棚に保管している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定ができるような雰囲気づくりをし、そのうえで声掛けや説明を行うことで、納得して決めることができるように努めている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や入浴時間、食事時間は本人の希望を聞き、希望にそって支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類などは利用者が気に入ったものを着用できるよう支援している。理・美容については、2か月に一度、移動美容室が来設し行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設調理のため毎回の食事作りは行っていないが、月に一度夕食作りを利用者と一緒に行っている。	○ 食事作りをする機会を増やしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒に関しては医師・家族の意見を聞いた上で対応している。おやつに関しては、施設が用意するもの意外に買い物などで本人希望のものを購入している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、個々の排泄パターンを把握すると共に行動を観察することで、適宜誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	声かけし拒否するときは無理強いせず、他の日や他のタイミングで誘導している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	真っ暗では眠れない利用者には、ダウンライトを点灯し休んでもらったり、使い慣れた布団で休んでもらうなどの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ベランダの花を育ててもらったり、米研ぎをしてもらったり、自分の洗濯物を居室で自分で干して畳んだり、各々の利用者の能力に合わせた役割を提供している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていないと不安になる利用者については、家族と相談し少額のお金を持ってもらっているが、使えるような支援はできていない。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の支援は行っているが、天候や業務の状況に左右されがちである。	○	職員本位ではなく、利用者の希望に応じて外出支援を行ってきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	墓参りや法事など、家族と協力しながら、希望の利用者に対して支援できている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置し、希望する利用者にはいつでも電話できるよう対応している。年賀状も作成している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を制限せず、いつでも来れるような環境をつくっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を全ての理解できている。やむを得ない利用者に関しては、家族から了解を得たうえで、拘束を行い記録し、対応を工夫することで拘束を解除した実績がある。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に限らず鍵は掛けないケアに取り組んでいる。鍵を掛けないことで利用者が移動できる範囲を制限せず行きたい場所に行けるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、常に、利用者がどこにいるか気にしながら、個々の対応を行っている。居室を確認する際は、日中は必ずノックし、ドアを開けるときは声を掛けることを心がけている。夜間は安眠を妨げない配慮をしながら巡回している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	誤飲・異食の危険性のある利用者があるが、日中は職員が常に気をつけることで対応している。夜間は職員が一人体制のため、洗剤や鉄などは、流し下の戸棚にしまっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書・ヒヤリハット報告書を作成し、事故対策委員会で個々のケースを検討し対応策を立て、職員に周知することにより事故を防止している。服薬に関しては、一人ひとり服薬介助を行い、誤薬を防いでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	AEDを設置し使い方の研修会を行っている。ホールに吸引機を設置し、食事時の誤嚥に備えている。吸引器の使い方については、随時看護職員より指導してもらっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を実施予定であるが、地域の人々の協力を含めたものになっていない。	○	防災訓練の実施回数を増やし、その内何回かは、地域住民に声をかけ、参加を依頼していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	主治医や管理者により、一人ひとりに可能性のあるリスクについては、家族にあらかじめ説明を行っている。対応策としては、拘束をできるだけ行わず、センサーマットを使用することで抑圧感のない暮らしを大切にしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルサイン測定を行い、異常があれば看護職員に報告している。週一回体重測定を行い、体重の増減にも気を付けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては看護職員が管理しており、他の職員は薬の目的や副作用、用法や用量について理解できていない。	○	職員研修で一人ひとりの薬の目的や副作用、用法や用量について学習していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	頻繁な水分補給を促し、昼食・夕食前には体操を行うなど、便秘の予防に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	夕食後は、各利用者の能力に応じて、口腔清拭の介助を行っているが、強い拒否のある利用者に関しては無理強いせず、対応者を変えたり、タイミングを変えたりして対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が減ってきた利用者に関しては、チェック表を記入し看護職員を通じて主治医に連絡している。嚥下状態に応じてミキサー食や刻み食で対応している。	○	熱発や下痢などの病状にも合わせた食事形態の工夫(お粥やおじやなど)をしていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染委員会を設置し、概ね3か月に1回委員会を開催し、利用者の爪ぎりの徹底や朝食前のおしぼりの配布などを決定周知し、感染予防に努めている。インフルエンザについては、職員・利用者共に全員予防接種を行った。手洗いや手指消毒の徹底や手袋の使用については、再々職員に周知徹底を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	生ごみはすぐ処分し清潔を保っている。冷蔵庫内の食品をチェックし、期限の過ぎたものは処分している。食材と食器については厨房で管理しており、食材は業務用冷蔵庫、食器は高温滅菌処理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	国道から奥まったところにあり、場所は分かりにくい。	○	家族や近隣の住民や利用者にとって、親しみやすく安心して出入りできる玄関周りについて検討中である。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は南向きで日当たりもよく明るい。季節ごとの飾り付けをし、利用者が季節、時候を感じられる工夫をしている。入浴なども柚子湯を実施するなど季節を楽しむ工夫も取り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれるスペースはないが、利用者個々が自分自身の思い思いの場所で、仲の良い利用者同士で過ごしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り今まで本人が使用していた馴染みのものを持ってきていただき配置している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に換気を実施している。臭いのきつい場所は消臭器・芳香剤を設置している。温度調節は各居室に温度計を設置しこまめに温度調整をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーであり、風呂・トイレは分かり易い表示をしたり、鍵をかけないことで自由に建物内部が移動できるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	理念の「寄り添い待つ介護」を実践し、ゆっくり・ゆったり寄り添い、利用者が自己選択できるように接している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋上には菜園できるスペースを設け、季節の野菜や草花作りが楽しめるようにしている。ベランダには、プランターを設置し草花作りを楽しめるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
		○	③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・食事前のラジオ体操や嚙下体操の実施
- ・屋上の家庭菜園
- ・月に一度の職員と利用者一緒の夕食作り
- ・学習療法の実施
- ・センサーの設置およびベッドの位置変更などによる事故防止対策
- ・季節の行事、毎月の誕生会、柚子風呂の実施